



瑞浪市青少年育成市民会議だより

第23号

笑顔あふれるみずなみ

『みとめて ほめて はげまして』 みんなの力で健やかに

〔発行〕 瑞浪市青少年育成市民会議

〔編集〕 市民会議専門部会 広報部会



第1回瑞浪市青少年育成市民会議総会
令和6年6月2日(日)



釜戸町地域づくり町民会議(モデル地区指定)
活躍を期待しています



講師 若宮 正子 氏
(ITエバンジェリスト)



演題『実り多い豊かな人生 私は創造的でありたい』
～人生100年時代を生きるということについて～

青少年育成市民会議総会を開催しました。
講演会では、世界最高齢でゲームアプリを開発し一躍有名になられた若宮正子さん(八十九歳)のご講演「実り多い豊かな人生 わたしは創造的でありたい～人生百年時代を生きるということについて～」をお聴きしました。

若宮正子さんは、シニア世代へのデジタル機器普及活動に尽力してみえます。高校卒業後は、三菱銀行(現・三菱UFJ銀行)に定年まで勤務されました。五十八歳からパソコンを独学で習得し、世界最高齢の八十一歳でスマホアプリを開発されました。このことから米国アップル社の開発者向け会議に特別招待されたり、国連でもスピーチされたりと、多方面でご活躍です。

講演では、人生百年時代を迎えシニア世代の方々がデジタルを活用して元気に生きるための秘訣、そして学び続けることの大切さを話されました。古い価値観や、自分の中にある「もう年だから…」という言葉で自分の未来に蓋をするなどの考えを改め、自己を見つめなおす機会になったと思います。

若宮さんの年齢にとらわれない生き方はあらゆる世代へ「若宮さんに負けていられない」と思えるエールになることでしょう。人が何かをはじめめるのに年齢は関係ないと改めて感じることでできました。シニア世代に元気を与えるご講演となり、きっと参加された多くの方々には熱い想いを持たれたでしょう。

青少年育成市民会議 理事代表 萩尾英明

第45回 瑞浪市主張大会

(令和6年6月16日(日))

出場者氏名

◎最優秀賞 「」題名
○優秀賞

小学生の部

○有我 憲剛 釜戸小学校6年
○小栗 実桜 日吉小学校6年
○加藤 駿弥 瑞浪小学校6年
○玉川 芽依 土岐小学校6年
○河野 由奈 陶小学校6年
○津田 快虎 稲津小学校6年
○中西 彩乃 明世小学校6年

中学生の部

◎モベラ ミキ 瑞浪北中学校3年
『ふいの出身ですか』

○澤井 満琉 麗澤瑞浪中学校3年
○鷲尾 亮太 瑞浪中学校3年
○三輪 結空 瑞浪南中学校3年

高校生の部

◎林 沙央理 中京高校1年
『校則を拘束にしないために』
○鈴村 のえみ 麗澤瑞浪高校2年
○本庄 華憐 瑞浪高校2年

小学生の部



高校生の部



中学生の部



中学生の部

最優秀賞
モベラ ミキ さん
(瑞浪北中学校3年)



高校生の部

最優秀賞
林 沙央理 さん
(中京高校1年)



来場された方々からの感想

～ 感想をいただきましたので、一部を紹介します。～

- ・ 出場された皆さんの思いが伝わってきました。自分なりの考えを堂々と語っていてとてもすてきでした。
- ・ 子ども達が、それぞれ自分の考えをもって堂々と発表される姿に深く感動しました。
- ・ 家族や地域のこと、自分のことなど、本当に身近なことだから説得力のある内容だと感じました。
- ・ 住みよい地域づくりのこと、様々な差別のこと、命に関することなど子ども目線で精一杯考え、どの発表も堂々としていて素晴らしいものでした。
- ・ 一人一人が伝えたいことを、自分の言葉で気持ちを込めて発表されました。たくさんの考えを聞くことができ、自分自身の知見も広がりました。
- ・ この素晴らしい主張発表をもっと多くの市民に聞いてもらいたいです。

中学校の部 最優秀賞

中学校の部で最優秀賞を受賞した、モベラミキさんの主張は、東濃地区の代表にも選出されました。

8月2日（金）に岐阜市で開催された「第46回少年の主張岐阜県大会～わたしの主張2024～」に出場し、優秀賞を受賞しました。

「どこの出身ですか」

モベラ ミキ さん（瑞浪北中学校）

私はこの質問をされたとき、戸惑ってしまいます。なぜかという、私には育った国、というより育った文化が2つあるからです。私はフィリピンで生まれ、まだ記憶にない頃に日本へ渡りました。私の両親はフィリピン人で、家ではフィリピンの食べ物を食べ、英語で会話しています。でも、外では日本の学校に通い、日本語で話します。そんな生活をずっと続けてきました。「英語の授業がよく分かる」みたいに2つの文化で育ったおかげで得することもあります。しかし、差別を受けたわけではないけれど、「日本人」という日本人同士でしか共感できない会話を耳にすると、私の中で「周りと違う…」と思うことがあるのです。

中学校1年生のとき、1か月間フィリピンに滞在しました。本来の目的は親戚に会うことでしたが、私の中では「フィリピンで、いつもの私を発揮する」ことを密かに目標にしました。私は、私の「普通」が日本で「違う」のなら、フィリピンに行くことで「当たり前」になれるのだ、と信じていたのです。長年会えていなかった祖父母や親戚に会い、とても楽しい一時を過ごしました。そしてそのときに、「いつもの」自分になってやろうとしました。でも、フィリピンは日本と違います。例えば、日本は皆がルールを守ります。そして夜や街中でも静かです。また日本には「敬語」というものがあり、相手に対して丁寧に接します。一方、フィリピンは街中でクラクションが鳴り響きますし、夜でも騒がしいです。しかし、日本と比べ、人と人との距離が近く赤の他人でもすぐに仲良くなることができます。私が住み慣れた日本と違う生活を送るにつれ、私の「普通」は、フィリピンでも「違う」のだと気付きました。

それでは「どこの出身ですか」と聞かれた時、どこだと言うべきなのでしょう。仮に「日本です。」と言います。だけど、家では日本語を話していないし、箸を使ったりしていません。それなら「フィリピンです。」と言ったとしましょう。だけど、フィリピンでの生活は慣れていないし、実のところ私はあちらの言語をうまく話せません。そんな私は、どこの出身なのか。フィリピンから日本に戻って、私はそのことをずっと悩んでいました。

しかし、ある日ある言葉に出会いました。「サードカルチャーキッズ」略して「T C K」です。その意味は、両親が生まれた国の文化と、自分が現在暮らしている国の文化のはざままで生きて、独自の生活を送る子どもたちのことを言います。両親が生まれた国の文化を第一文化、自分が現在暮らしている国の文化を第二文化、独自の生活を第三文化と言い、英語で言うと「サードカルチャー」で、「サードカルチャー」を持つ子どもたちが「T C K」という名前になったそうです。私の場合、第一文化がフィリピンで、第二文化が日本、家でフィリピンの料理を食べ、外では日本語を話すという、二つの国の文化が混ざったものが、私の「第三文化」だと考えました。ネットでもっと調べてみると、私と同じように複数の国の間で子ども時代を過ごした人や、色々な国のルーツを持つ人たちが多くいることを知りました。

「T C K」。この言葉を知ったとき、私は感銘を受けました。「まさに自分がそうだ」と気付いたのです。私はひとりじゃないことに、気付きました。それまではこう思っていました。変わっているよ、自分にとって「ふるさと」と言える国がわからないこと。おかしいよ、「どこの出身ですか」なんて簡単な質問で戸惑うなんて。でも、そんな私の考えは変わりました。いいんだ、「ホーム」と言える場所がいくつかあっても。いいんだ、自分は〇〇人とはっきり言えなくても。

私は、「サードカルチャーキッズ」の一人として、自分にしかわからない経験を将来に生かしたいです。フィリピンと日本の「架け橋」となって、この二つの国の魅力を世界に発信させ、世界中の多様な文化にも触れながら、これからの社会を築いていく一人になりたいです。今後もグローバル化は進み、様々な人・様々な文化と関わるでしょう。その時に、皆さんに、ぜひ知っておいてほしいことがあります。それは、「誰かの育った国、文化には多様な背景があること。」お互いの背景を尊重し合って、これからの社会をつくっていきましょう。

最後に質問です。

「私はどこの出身だと思いますか。」



高校生ボランティアの皆さんが大会を支えました ～来場された方々からあたたかい言葉をいただきました～

- ・高校生のボランティアの活躍はいつもみて感心させられます。若い力で取り組んでもらえる姿をみて未来への期待がもてます。
- ・とても丁寧な進行で分かりやすかったです。そして、はきはきしていて聞きやすかったです。
- ・高校生ボランティアの皆さん、本当に上手でした。最初から最後まで全ての司会進行を高校生にやってもらってもいいのではないかなあと感じました。

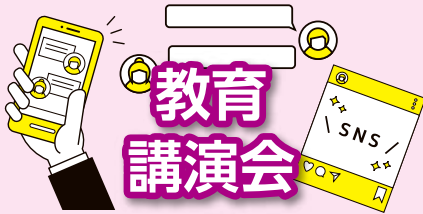
第45回 瑞浪市主張大会を終えて

令和6年6月16日、瑞浪市総合文化センターホールにて、第45回瑞浪市主張大会が開催されました。今回は小学生の部7名・中学生の部4名・高校生の部3名計14名の方が主張大会にて発表されました。

本年度は、市制70周年の記念事業として開催したこともあり、視聴者の方も、学校関係者・発表者のご家族・市民の方など多くの方が来場していただく盛況ぶりでした。また、休日にもかかわらずボランティア活動で参加して司会進行など大会をスムーズに進行していただいた瑞浪高校・中京高校・麗澤瑞浪高校の6名の生徒の皆さんに心から感謝申し上げます。

今回の主張大会では、地域に根差した問題・命の大切さ・国際的な諸問題や学校の校則のとりえ方などの社会問題がテーマとなっていました。このように、年齢を超えそれぞれの意見を傾聴することで、自らを振り返り将来を考察したりすることができる素晴らしい場となりました。このような異年齢交流が、将来地域を支え、地域の力となっていくと確信することが出来ました。

岐阜県青少年育成推進指導員 曾我順一



デジタル・AIネイティブたちの心を育てる ～アナログを知る私たちにできること～

東洋大学 客員研究員・静岡大学 名誉教授 浅間 正通 氏

7月23日（火）に、市PTA連合会と瑞浪市青少年育成市民会議の共催による教育講演会・懇談会が開催されました。

「デジタル・AIネイティブたちの心を育てる～アナログを知る私たちにできること～」というテーマで、浅間正通氏にご講演いただきました。60分という限られた時間でしたが、題名の範囲だけではなく多岐に渡る内容に触れられました。

デジタルネイティブの子どものスマホ依存は共通の課題ですが、子どもが見ている画面を親も共有して理解すること、デジタルにある弱点と対峙するアナログの大切さを強調されました。

メディアリテラシーにも言及され、報道を批判的な視点で捉え取捨選択することと定義されました。日本にしながら英語が話せる子どもの話を例にあげられました。この子どもは本当に日本にいてだけで流暢に英語が話せるようになったのだろうかという疑問から、報道で伝えられなかった背景を調べたそうです。結果的にはオーストラリア訛りから、オーストラリアでの滞在経験があったことが判明したそうです。報道で伝えられる情報に溢れる社会ですから、子どもたちもメディアリテラシーを鍛える経験を積んで、これからの時代を生き抜いて欲しいと感じました。

また、世界幸福度ランキング1位のフィンランド（日本は47位）で『MIKSI（ミクシー）（なぜ？）』教育が実践されていることやいじめの指導について傍観者の教育を推進することでいじめが激減したこと、日本人はマジョリティ（多数派）を好む傾向があるので疑似的マイノリティー体験をさせることが心を育てる手法のひとつであることなど、大変興味深い講演会でした。

講演後の懇談会では、私たち子育て世代と各小中学校の校長先生や教頭先生とで、講演会の感想や携帯電話・SNSについて意見交流が行われました。また、子どもに対する悩みや疑問なども、学校・地域・家庭それぞれの立場から話し合うことができ、時間が足りないほど充実した懇談会となりました。

一方通行の講演会だけではなく懇談会をすることで、講演の内容を踏まえながら同じ不安や悩みを抱える親世代との意見交流ができる機会を作っていただいた市PTA連合会の皆様に感謝申し上げます。

青少年育成市民会議 理事 中根 圭一



【浅間先生の話に聞き入りました】

講演を聞かれた方々からの感想

～出席された方々から感想をいただきましたので、一部を紹介します～

- 内容の濃い講演会であったと思います。テーマもタイムリーで、非常にためになりました。時間的には、もっと長い時間であれば更によかったのではないかと思います。
- デジタルネイティブの子どもたちの「心」を育てるためにメディアリテラシーを身に付けさせ、メディアが発するものに批判的な目を向けられるようにすることと、「なぜ？」と問い思考することをやめさせないことを大切にしていきたいと思いました。
- デジタル・アナログの両方のよさを伝えていくことが大切だと感じました。
- グループ懇談会の設定がよかった。もう少し時間があるとよい。
- 懇談会はとてもよいと思う。今後もやるべきです。



【気軽に思いを話せる懇談会となりました】

「夏季特別街頭指導を実施して」

毎年、瑞浪市青少年育成市民会議では、東濃西部少年センター瑞浪地区指導員の皆さんの協力を得て、学校が夏休みになる前後の7～9月の期間で「夏季特別街頭指導」として、瑞浪駅周辺からバロー瑞浪中央店付近の夜間巡回を行っています。

夏休み1週間前のこの日、午後に降った雨のお陰で少し涼しく感じる中、少年センター指導員の皆さんと共に、中央公民館から約1時間巡回し、ゴミ拾いをしながら安全指導を目的とした街頭指導を行いました。駅から離れた方面の巡回と

ということもあって、3人の高校生らしき学生に出会っただけでしたが、その学生達が、私たちより先に大きな声であいさつをしてくれました。気持ちのよい挨拶に後押しされ、その後の巡回も無事に終わることができました。途中、ある公園内にビールの空き缶とたばこの空き箱が残されていたことが少し残念ではありましたが、1時間の巡回で拾ったゴミは4人合わせても少量で、大変きれいな街だと実感しています。

地道な活動ですが、関係者の方々が長年続けてこられた成果で、正に「継続は力なり」と感じる活動だと改めて思いました。



【地道な活動が健全な青少年の育成に】

青少年育成市民会議 理事 和田 建司

「青少年の非行・被害防止全国強調月間」 啓発活動

今年も「瑞浪の青少年は瑞浪市民の手で みとめて ほめて はげまして みんなの力で健やかに」を合言葉に、青少年育成市民会議が中心となり、東濃西部少年センター瑞浪地区指導員、各地区の町民会議等の協力を得て啓発活動を行いました。ピアゴ・バローの店舗前での啓発活動は天候不順により中止としましたが、各地区で開催された夏祭り等の会場で実施することができました。

陶町の水上地区と大川地区のお祭りでは、駐在所のお巡りさんにも加わっていただき7名で、来場する子どもたちや親御さんたちに、声をかけながら啓発グッズ（リーフレット、ティッシュ）を手渡しました。青少年を、地域をあげてみんなの手で見守ることの大切さを改めて実感しました。

11月には「秋のこどもまんなか月間」の啓発活動を各地区の文化祭等にて実施する予定です。ご協力をよろしくお願いいたします。



【陶町水上地区のお祭りでの啓発活動】

青少年育成市民会議 理事 伊藤 啓次



【金戸町夏祭りでの啓発活動】



【市PTA連合会講演会での啓発活動】

瑞浪市青少年育成市民会議の構成団体は、以下の諸団体です。

＊市議会 ＊教育委員会 ＊町民会議・まちづくり ＊社会教育委員会 ＊連合自治会 ＊園長会
 ＊小中学校校長会 ＊瑞浪高等学校 ＊中京高等学校 ＊麗澤瑞浪中学・高等学校 ＊中京学院大学
 ＊市PTA連合会 ＊市子ども会連合会 ＊市スポーツ少年団 ＊市民生委員・児童委員協議会
 ＊東濃西部少年センター ＊社会福祉協議会 ＊瑞浪保護区保護司会 ＊多治見警察署瑞浪警部交番
 ＊瑞浪ロータリークラブ ＊瑞浪ライオンズクラブ ＊瑞浪青年会議所

瑞浪市青少年育成市民会議本部

会長 水野 光二（瑞浪市長）

★理事代表 ☆理事副代表

県指導員 曾我 順一 伊藤 啓次 小池 誠 植村 準 小倉 富晴 桑原 義孝 旗 秀樹 ☆岩島 辰也 ☆和田 建司 ☆中根 圭一 ★萩尾 英明	市推進員 羽柴 誠 柴田 洋子 鈴木 圭子 可児 恵太 顧問 滝川 直樹 安藤 昇 有賀 秀雄 成瀬 徳夫 伊藤 慶和 勝 康弘	副会長 勝 康弘
---	--	--------------------

専門部会

◇強調月間啓発活動（7月・11月）

【 】部会 ◎部会長
 ◇主な活動 ○副部会長

【事業部会】

<家庭地域教育事業>

- ◇「高校生と語る会」
- ◇「教育講演・懇談会」

◎中根 圭一
 ○桑原 義孝
 渡邊 康弘
 山田 隆二
 渡邊 冬子
 竹内 早苗
 西尾 友宏
 丸山 和宏
 石川 哲也
 原 麻帆
 橋本 豊敬
 内田小夜香
 福永 泰子
 河口 敦子
 河合 隆
 安藤 昇
 中村 鈴彦
 湯原 定雄
 伊東 正美
 小栗 智幸
 林 幸弘
 市岡 友子
 加藤 誠二
 清水 芳樹

<環境改善事業>

- ◇「夏季特別街頭指導」
- ◇「清掃ボランティア」

◎和田 建司
 ○旗 秀樹
 中村 鈴彦
 岩島 哲也
 西尾 太志
 後藤 東
 永井 佑
 青木 彩人
 和田 智子
 足立妃都美
 鵜飼 泰宏
 伊藤 孝一
 原田 緑
 加藤 義弘
 梶田 正紀
 ヒッチングス真楠
 工藤 靖子
 曾我 順一
 伊藤 啓次
 小池 誠
 小倉 富晴
 植村 準
 水野 浩

【広報部会】

◇「市民会議だより」

◎岩島 辰也
 ○萩尾 英明 渡邊 悟
 滝川 直樹 小栗 正敏
 早瀬 徹

今後の主な年間活動予定

- ・ 10月12日（土）高校生と語る会
- ・ 11月『秋のこどもまんなか月間』
※各地区文化祭会場にて、啓発グッズを配布する活動を行います。
- ・ 11月16日（土）中央公民館で啓発活動
- ・ 12月14日（土）年末清掃ボランティア活動
- ・ 1月24日（金）第2回専門部会
- ・ 2月15日（土）第2回青少年育成市民会議
総会(表彰・モデル地区発表)

編集後記

本年度も、青少年を健全に育成するという目標を一つにしながら、青少年育成活動の様子を広く広報することに努めていきます。

今後も青少年の健全育成に対する市民の皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。

瑞浪市青少年育成市民会議 広報部会
 （総合文化センター内 TEL(0572)68-5281）